

## 平成30年度 軽スポーツレクリエーション大会 卓球バレー（団体戦）競技規則

### 〔競技規則〕

- (1) 6人1チームの12人で卓球台を囲み競技を行う。
- (2) 木製のラケットを各自が持ち、盲人卓球用のピン球を3打以内で相手コートに打ち返して得点を争う。
- (3) ピン球はネットの下を通過させる。
- (4) 1チーム6人のうちネット際の2人をブロッカーと呼び、主に攻守の要となる。
- (5) ブロッカー以外の4人はサーバーと呼ぶ。  
サーブはこの4人が順番に行い、相手チームと交互にサーブを行う。
- (6) コートの外へピン球が落ちたり、3打以内で相手コートに返せなかった時やファウルをした時などに得点となる。
- (7) ボールはラケットで転がして打ち、サービスは、ネット側の2人（ブロッカー）を除く4人（サーバー）で、各チーム1本ずつ交代で行い、ラリーは3打以内で相手コートに返す。  
ただし、3打目のボールがネットに触れた場合は、同じ競技者がもう1打だけ打つことができる。
- (8) 1試合は3セットで行い、2セットを先取したチームを勝ちとする。  
なお、1セットは11本を先取したチームを勝ちとし、デュースは行わない。  
また、コートの交替は行わない。
- (9) 試合時間は20分以内とし、20分になった時点での獲得セット数、若しくは獲得セット数が同じ場合は、その時点のセットの得点の高い方を勝者とし、同点の場合は1本の延長戦を行い勝者を決する。
- (10) 得点は、全得点制（ラリーポイント制）を取る。

### 〔得点となるファウルの種類〕

競技ルールはバレーボールに準拠したものである。

サーブブロック：ブロッカーは、相手のサーブを直接打ち返すことは出来ない。

ホールディング：ピン球をラケットで押え込みながら打つなどして、打球音がしない時や不自然に打球の角度が変わった時は反則となる。（打球は、はじき返して打つこと。）

ドリブル：一人の競技者が連続して2回ピン球にふれたとき。

反則基準の判断については、障害の程度による場合があり、競技前に主審が説明を行う。

タッチネット：ラケットや手で、ネットやネットの支柱に触れると反則となる。

ボディボール：ラケット以外の腕や身体でピン球を打つことはできない。

サポート：ネットの支柱にピン球が当たった時は、当たった側の反則となる。

スタンディング：車いすまたは椅子から腰を浮かせたり、立った場合や車いすまたは椅子を動かした時は反則となる。

オーバーネット：ネットの上や下から相手コート内にラケットや身体の一部が出た場合。

ボールアウト：打球がネットを越えて相手コートに入った時、また、ネットの下を通って行ったピン球が相手コート上に落ちることなくコートの外へ出た場合は相手側の得点となる。

ストップボール：自分のコートの上でピン球が静止したとき。

サービスミス：正規のサービスが行えなかったとき。